



2021年(令和3年)2月26日(金)発行

〔発行所〕 応用生態工学会事務局 〒102-0083 東京都千代田区麹町 4-7-5 麹町ロイヤルビル 405号室  
TEL: 03-5216-8401 FAX: 03-5216-8520 E-mail: [eces-manager@ecesj.com](mailto:eces-manager@ecesj.com) HP: <https://www.ecesj.com/>  
〔発行者〕 応用生態工学会(編集責任者: 幹事長 北村 匡, 事務局長 青江 淳)

1	はじめに	1
2	2021年度海外学会等への派遣者を募集します	2
3	行事開催報告	
3.1	応用生態工学会金沢 Web 研修会	
	— 激甚化する豪雨災害に対する流域全体の取り組み —	4
4	理事会・幹事会報告	
4.1	第109回理事会(Web会議)報告	7
5	2020年度行事の経過と今後の予定	8
6	事務局より	10

## 1 はじめに

今号では、2021年度海外学会等への派遣者募集、各地の活動状況など、学会の動きをお伝えします。

### 2021年度海外学会等への派遣者を募集します

新型コロナウイルスの世界的な流行により、国際学会・シンポジウム・国際会議においては、オンライン開催(ウェビナー開催)が定着しつつあるので、2021年度の派遣者募集に関しては、ウェビナー開催への参加費に関しても助成対象とすることとしました。

応募の締め切りは3月31日(火)事務局必着、4月下旬までに決定される予定です。

本制度を活用した研究者や技術者から有意義な経験や体験が報告(当学会ホームページの「各種情報サービス 海外派遣 これまでの派遣状況」に掲載)されていますので、ぜひご応募を検討ください。

### 住所等の連絡先が変更となった場合は連絡をお願いいたします

会員情報の変更登録は、ホームページのトップ画面右上の「入退会・登録変更・購読」バナーから入り、「会員登録情報変更フォーム」から入力して送信してください。

また、下記 URL で「会員登録情報変更フォーム」へ直接接続することもできます。

<https://www.ecesj.com/FS-APL/FS-Form/form.cgi?Code=change>

会員情報変更のご連絡は、学会事務局のアドレス E-mail: [eces-manager@ecesj.com](mailto:eces-manager@ecesj.com) にメールをいただくことでも可能です。

会誌のお届け、ニュースレター、その他連絡では、かなりの不達が発生しています。

## 退会の申し出は学会ホームページの退会フォームからお願いいたします

退会の申し出については、退会フォームのほかに、事務局へのメール、電話、年会費払込請求書の通信欄に記載等でなされています。事務局の見落とし等の原因の元になりますので、できるだけ退会フォームまたは件名に「退会の連絡」等明示したメールによる申し出をお願いいたします。

## 2 2021年度海外学会等への派遣者を募集します

### 2021年度海外学会等への派遣者の募集

国際交流委員会委員長 篠原隆一郎

応用生態工学会国際交流委員会では、2021年度の海外学会等への派遣者1名を募集します。募集要領は以下のとおりです。派遣に関する詳細は、学会ホームページの「各種情報サービス — 海外派遣」をご確認のうえ、事務局まで申し込みください。

\*\*\*\*\*  
赤字は、例年の募集要領を変更した部分を示す。

### 海外学会等への派遣者募集要領

#### 1. 目的

自然環境と開発の問題については、我が国だけに限らず多くの国々で関心が持たれ、様々な研究と実践的な試みが行われてきている。応用生態工学を発展させるためには、こうした海外での活動に積極的に係わり参加することによって、情報を得ながら、人的交流を図ることが求められている。

応用生態工学会では、ここに会員から希望者を募り、「派遣研究員」を審査選考して、当該年度に海外で開催される応用生態工学に関連する学会・シンポジウム・国際会議等に派遣し、その内容を応用生態工学会会員に報告するものである。

現在、新型コロナウイルスの世界的な流行により、国際学会・シンポジウム・国際会議においては、オンライン開催(ウェビナー開催)が定着しつつある。そこで、2021年度の派遣者募集に関しては、ウェビナー開催への参加費に関しても助成対象とすることとした。

#### 2. 選考

##### 1) 資格

- ① 応用生態工学会の正・学生会員であること(募集開始時点で会員でなくても、会員となることを条件として応募可能とする)
- ② 学生あるいは35歳未満の研究者・技術者

##### 2) 派遣研究員の選考

- ① 学会としての総助成額を20万円とし、~~原則1名、場合によっては2名を~~選考する。
- ② 選考にあたっては国際交流委員会において書類審査を行い、候補者を選定した上で国際交流委員会にて決定し、幹事会および理事会に選考の経緯および結果を報告する。

##### 3) 選考基準

- ① 派遣対象となる会議のテーマと本人のバックグラウンド(研究・調査経験)の整合性
- ② 派遣対象となる会議で何を学ぼうとしているのか、その焦点を明確に述べているか否か
- ③ 国際会議に出席して内容を把握できる能力
- ④ 応用生態工学への関心の度合い

- ⑤ 応用生態工学会での活動・参加状況・受賞歴
- ⑥ 派遣に関連する研究業績や業務実績

#### 4) 派遣後の要件・手続き等

- ① 派遣研究員は、海外渡航の成果を指定の様式を用いて報告するものとする（報告内容は本学会のニュースレターおよび会誌“応用生態工学”に掲載します。なお、会誌“応用生態工学”では、「トピックス」に掲載します。）。
- ② 派遣終了後は、助成額の使途（使用費目と金額）について、決算報告するものとする。渡航先によっては、助成額の総額を上回る金額を使用した場合も考えられるが、その場合は、それらも含めて決算報告を行う。使用金額が助成額の上限を超えなかった場合には、余剰金を応用生態工学会に返金するものとする。
- ③ 何らかの理由により海外渡航と学会参加を中止する事態が生じた場合には、すみやかに応用生態工学会事務局にその理由などを報告するものとする。
- ④ 派遣研究員は、関連した研究や技術開発について、会誌“応用生態工学”もしくは英文誌“Landscape and Ecological Engineering”に論文を投稿することが推奨される。

#### 3. 申請書

派遣希望者は、会員番号、氏名、所属、連絡先（住所・TEL・FAX・E-mail）、年齢、性別、専門分野、希望派遣学会等（開催会議等の名称、主催者名、開催月日、開催国・地名、会議等の目的・内容、現地見学会の有無と内容、参加申し込み期限、参加費、研究発表を行うか否か（その形式）、案内パンフ等がありましたらそのコピーをお送りください）、および派遣希望理由（上記の「3) 選考基準」の各項目）を、A4計3枚以内（書式自由）にまとめ、郵送・FAX・E-mail 等にて学会事務局に申し込みください。なお、4月以降に所属が変わる場合は、4月以降の連絡先も付記してください。

#### 4. 申込期間

2021年2月17日（水）～3月31日（水）事務局必着

#### 5. 派遣決定時期

2021年4月下旬までに決定

#### 6. 派遣を推奨する国際学会およびシンポジウム（以下の国際学会が主催する国際会議）

- ・ Annual Meeting of Society for Freshwater Science (SFS) <http://sfsannualmeeting.org/>
- ・ American Geophysical Union (AGU) <http://sites.agu.org/>
- ・ American Society of Limnology and Oceanography <http://aslo.org/index.php>
- ・ European Geosciences Union (EGU) <http://www.egu.eu/>
- ・ International Society for Ecological Modelling (ISEM) <http://www.isemna.org/>
- ・ International Society for River Science (ISRS) <http://www.riversociety.org/>
- ・ International Water Association (IWA) <http://www.iwa-network.org/>

なお、上記以外の国際学会やシンポジウムでも応募できます。

### 3 行事開催報告

#### 3.1 応用生態工学会金沢 — 激甚化する豪雨災害に対する流域全体の取り組み —

報告者：応用生態工学会金沢 普及・連携委員  
平野 博範 (株) 国土開発センター

##### 1. はじめに

「応用生態工学会金沢 WEB 研修会」は、新型コロナウイルス対策のため、zoom を使用した初の WEB 開催となりました。

本研修会は、近年の台風 19 号による千曲川の氾濫(令和元年 9 月) , そして本年 7 月九州南部を襲った豪雨による球磨川の氾濫などによる洪水災害を踏まえ、「激甚化する豪雨災害に対する流域全体の取り組み」をテーマとして「流域治水」の理論と実践例について 5 人の方に講演して頂きました。

参加者は約 80 名で多くの皆様にご参加頂き、盛会裡に終えることができました。講師をはじめ参加者の皆様、関係者の皆様のお陰であり、心よりお礼申し上げます。

以下、開催状況を報告します。

##### 2. 開会挨拶・趣旨説明

開会挨拶・趣旨説明は、応用生態工学会金沢の会長である柳井清治氏が行いました。

近年、地球環境の変化により千曲川の氾濫など、様々な災害が発生しており、流域治水について考える機会が多くなっています。本研修会では、東京大学名誉教授 玉井信行氏と滋賀県立大学准教授 瀧健太郎氏による基調講演の他、事例発表(3 件)を行い、流域治水について議論していきたいと開催趣旨を説明されました。

##### 3. 基調講演

基調講演は、「流域管理の体系化について」：東京大学名誉教授 玉井信行氏、「滋賀県版流域治水～基本コンセプトと展望～」：滋賀県立大学准教授 瀧健太郎氏に講演して頂きました。

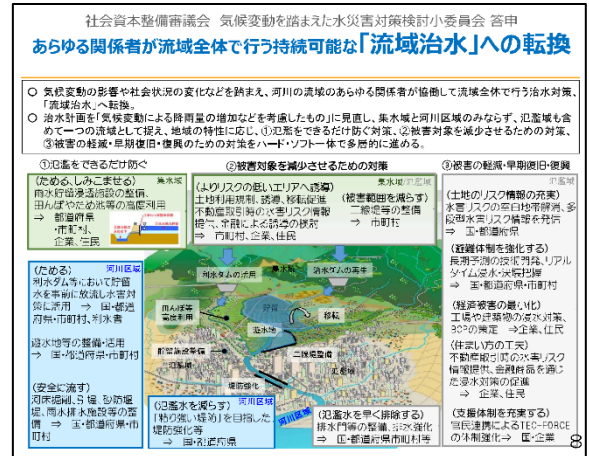
##### 1) 「流域管理の体系化について」：東京大学名誉教授 玉井 信行 氏

大水害は度々起こっており、1998年長江大洪水では流域管理の先駆けとも言える「水域を広げて水があふれないようにする」、「危険な場所に住まないまちづくりを行う」、「自然の恵みと人間の活力をバランスよく活かす」といった方針が出された。しかしながら、個々の局所的な災害復旧では、これらの教訓が生かされてこない。したがって、日本においても流域全体を視野に入れたまとまった流域管理の体系が必要である。流域管理では水工学の他に、倫理学、美学の観点が必要である。例を挙げると、住民が河川事業の進展と自分たちが住む都市や町での生活を一体として考えて判断をする時には、「地域の歴史と伝統(倫理学の観点の例)」や「土地景観(美学の観点の例)」といった視点が必然的に含まれて来るためである。避難に関しては、自然外力にはレベル1とレベル2という規模が存在するため、これに合わせて自分がどのように行動するかを決めることが重要であり、事前のタイムラインの作成が有効である。

<p>「流域管理の体系化について」</p> <p>玉井信行、東京大学名誉教授</p> <p>はじめに</p> <p>前半では、最近 30 年間の大洪水からの教訓をまとめたい。対象とするのは、1993 年ミシシッピ川の大洪水、1998 年長江の大洪水、2004 年及び 2011 年福島・新潟豪雨災害、2005 年ハリケーン・カトリナ、2011 東北沖大地震と津波、2015 年東日本大洪水、2018 年以降 2020 年に至る大水害などである。</p> <p>一つの結論は、同種の原因で、同じような水害が繰り返されていることである。人間は忘れやすく、過去の水害の教訓が適切には生かされていない、とも言える。</p> <p>後半においては、蓄積された事実と教訓をどう生かすか、を問題意識として話題提供者が考える体系の骨子を示してみたい。根底にあるのは、個々の局所的な被害を考慮しているだけでは、洪水の教訓を活かすために不十分ではないかという認識である。こうした認識に立つと、流域全体を視野に入れたまとまった体系が必要ではないかという、問題意識が生まれるわけである。</p> <p>このような展開で話を進めたい。</p>
--

2) 「滋賀県版流域治水 ～基本コンセプトと展望～」 : 滋賀県立大学准教授 瀧 健太郎 氏

近年、気候変動の影響や社会状況の変化を踏まえ、河川の流域のあらゆる関係者で協議を行った。その結果、流域全体で治水対策を行う「流域治水」への転換が必要となり、滋賀県では流域治水基本方針が策定された。基本方針では人命が失われることや、生活再建が困難となる被害を避けるため、洪水に対し「河道ですべて流す」、「河道以外で溜める」、「輪中堤等でとどめる」、「ソフト対策で備える」といった多重防御を推進している。これらの方針を検討する上で、地先の安全度を計算する水理モデルを作成した。また、まちづくり治水では「まち中で堤防決壊を避ける」、「溢れてもまち中に流れ込まないようにする」、「浸水しやすい場所を市街地にしないようにする」、「溢れても家が水没や流失しないようにする」、「何があっても命だけは守れるようにする」といった5つの施策を推進している。これからの多自然川づくりやかわまちづくりでは、「流域治水を踏まえた防災」と「地域の資源である自然の恵み」を掛け合わせて検討・実施していくことが重要である。



4. 事例発表

1) 「森林が流域循環に及ぼす影響 -手取川流域を事例として-」 :

石川県立大学准教授 藤原 洋一 氏

d4PDF(database for Policy Decision making for Future climate change)という気温が4℃上昇した場合のデータベースを使用し、水収支モデルの精緻化のため「森林内外の積雪・融雪観測」、「放棄竹林斜面における流出観測」、「高濃度濁水が地下水涵養機能におよぼす影響」という3つの現地観測を行った。「森林内外の積雪・融雪観測」では、日射は林外の方が多いため、樹林からの長波放射は林内の方が多く、森林が貯雪に役立っていないことを把握した。「放棄竹林斜面における流出観測」では色素トレーサー実験を行い、落葉樹林と放棄竹林では降雨流出過程に変化が生じていることを把握した。「高濃度濁水が地下水涵養機能におよぼす影響」では、一時は6.9%まで落ち込んでいた地下水への河川浸透量が2017年から回復傾向にあることを把握した。



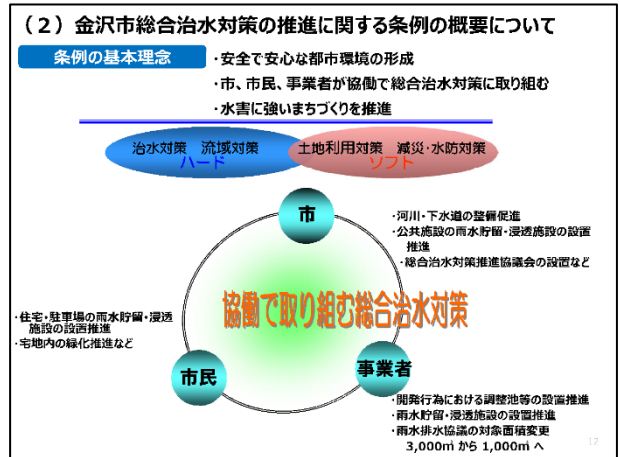
2) 「手取川における流域治水の取組み」：金沢河川国道事務所調査第一課長 谷 茂行 氏

毎年のように全国各地で発生する自然災害に対し、河川整備では「流域治水」への転換が急務となっており、金沢河川国道事務所では「流域治水プロジェクト(仮称)」に基づく事前防災を加速させている。今回は、手取川水系流域治水プロジェクトで検討している対策の1つである霞堤の保全について紹介する。霞堤は「河道貯留機能」、「氾濫戻し機能」、「二線堤としての機能」、「内水及び支川排水機能」があり、特に「二線堤としての機能」は、浸水断面が減少するため多重防御として機能することができる。手取川はひとたび氾濫すれば氾濫水は河道に戻らないという地形上の特性がある。霞堤の機能をどこでどの機能を効果的に活用して氾濫に備えるかは今後の課題である。



3) 「豪雨災害に対する金沢市の取組み」：金沢市土木局内水整備課長補佐 安達 忍 氏

令和2年の7月豪雨など、近年、多発する集中豪雨が頻発・激甚化している。河川などハード整備のみならず総合的な治水対策が必要である。今回は、金沢市の総合治水対策の推進に関する条例について紹介する。総合治水対策基本方針では、ハード面として「治水対策」、「流域対策」、ソフト面として「土地利用対策」、「減災・水防対策」と定めた。総合治水対策は、整備目標を「10年に一度の大雨(55mm/h)に対する浸水被害の発生及び拡大の防止を図ることを基本」として取組みを進めている。具体的な取組みとしては、治水対策では、河川改修や下水道等の整備等、流域対策では、流域に調整池や浸透施設を設置等、土地利用対策では、森林や農地が有する保水・浸透機能を確保等、減災・水防対策では、万が一の発災に備えるなど行っている。



5. 総合討論

総合討論では、石川県立大学 上野裕介准教授がコーディネーターとなり、基調講演者及び事例発表者の5名で聴講者からの質疑を中心に実施した。

1) 玉井 信行 氏

- Q：自然外力を考える上での時間スケールはどのくらい過去まで遡るべきか。  
 A：1~2 万年前くらいまでのスケールを考えるとよい。この期間の中で、流路の変遷はあったか、この変遷が今後の変化にどう関係していくかを検討するとよい。  
 Q：景観や自然の復旧はどうするべきか。  
 A：人工的な原型復旧ではなく、自然を活かした復旧を検討するべきである。

2) 瀧 健太郎 氏

- Q：なぜ滋賀県で流域治水基本計画の整備が一気に進んだのか。  
 A：滋賀県の河川が淀川水系にあったことで、知事からのトップダウンで浸水マップの作成が進んだからである。また、琵琶湖は堤で河川との縁が切れており、府県間の調整が必要なかったことも一因である。

3) 谷 茂行 氏

Q：手取川における霞堤の現状と機能について教えてほしい。

A：手取川では土地利用の点から過去に霞堤が閉められてしまっている場所がある。このため、現存する霞堤は保存し、且つ高さを管理し二線堤としての機能を保っていく。

：地域住民に対して二線堤の機能をしっかり説明し、地域のためになることを伝えることが重要。また、安全度の数値化はこれから進んでいくと思われるが、滋賀県の浸水モデルは他県でも活用できるモデルである。(瀧氏のコメント)

#### 4) 安達 忍 氏

Q：流域治水計画を進める上での課題は何か。

A：雨水排水対策の実施には、多額の費用や時間が必要であり課題となっている。また、命を守るには個人の防災意識の向上も必要である。

#### 5) まとめ (柳井 氏)

流域治水を進めるためには、河道だけでなく人工資産や自然資産を活用することが重要である。この自然資産をどう評価するかが課題である。また、まちづくりも大事な観点であり、様々なセクションを巻き込んで議論することが重要である。

#### 6. 閉会挨拶

閉会挨拶は、応用生態工学会金沢の副会長である万行康文氏が行いました。

基調講演や事例発表を通して様々な事例を紹介頂きありがとうございました。

流域治水を全国的に進めていくことが重要であり、今後も学会やこのような場で議論した内容を行政にフィードバックさせていきたいと考えている。

## 4 理事会・幹事会報告

### 4.1 第109回理事会 (Web会議) 報告

第109回理事会 (Web会議) が2月10日に開催された。

第109回理事会での審議事項と審議結果は次のとおり。

#### ①次期役員募集・推薦委員会規程の改正及び委員の指名

2021年度は2年に1回の役員改選の年に当たり、学会規約、学会規約細則、次期役員募集・推薦委員会規程に基づき第13期役員を選出いたします。

第12期役員募集・推薦委員会 (江崎保男委員長) の理事会報告の中で提起された次期役員募集・推薦委員会規程の一部改正について、役員候補者になるために推薦人5名以上が必要要件となる会長、副会長と推薦人が必要要件とならない理事、監事の違いがより明確になるよう改めることが承認された。

また、学会規約細則第5条の規定に基づき第13期次期役員募集・推薦委員会を設置することとし、委員長、委員として次のとおり指名することが承認された。

委員長	甲村謙友第12期会長
委員	谷田一三第9期会長
委員	辻本哲郎第10期会長
委員	江崎保男第11期会長

#### ②会誌の規程類の改正及び会誌編集委員会内規の修正

会誌の規程類の改正及び会誌編集委員会内規の修正について承認された。

会誌刊行規程、会誌投稿規程、会誌校閲規程の見直しポイントは次のとおり。

1. 編集システムとの整合 (電子ファイルでの査読を想定した記載に修正)
2. 最近の報文の内容の傾向を踏まえた報文種別ごとの定義等の見直し

- 3. 校閲と査読などの用語の統一
- 4. 会員、投稿者の利便性の向上のための修正

改正後の規程類、修正後の会誌編集委員会内規は下記を参照ください。

<https://www.ecesj.com/contents/journal/ece-regulation20210210.pdf>

## 5 2020年度行事の経過と今後の予定

### 2020年度(令和2年度)行事の経過と今後の予定

4. 1	2020年度(令和2年度)開始
4. 3～6	国際交流委員会(メール会議), 2020年度海外学会等への派遣者 ⇒ 募集中止
4. 17	第24回札幌大会第2回実行委員会 ⇒ 延期
4. 17	応用生態工学会札幌「氾濫原テキスト」勉強会 ⇒ 延期
5. 14～20	第105回理事会(メール会議)
5. 28～6. 5	情報サービス委員会(メール会議)
5. 21	第24回札幌大会の1年延期をホームページに掲載、会員に一斉配信
5. 21	ニュースレター88号発行
6. 2～12	第86回幹事会(メール会議)
6. 18～25	情報サービス委員会(メール会議)
6. 23	編集幹事会(Web開催)
7. 29～31	2019年度決算監事監査(書面検査)
7. 30～8. 5	第106回理事会(メール会議)
8. 6	応用生態工学会仙台 フィールド調査令和元年度報告会(Web開催) 『仙台湾南部海岸環境追跡プロジェクト～東日本大震災後の海岸堤防について～』
8. 6	編集幹事会(Web開催)
8. 12	応用生態工学会東京 2020web研究発表会 第1回準備会(Web開催)
8. 17	第24回札幌大会第2回実行委員会(web開催)
8. 18～25	情報サービス委員会(メール会議)
8. 21～27	第87回幹事会(メール会議)
8. 31～9. 7	第107回理事会(メール会議)
9. 14	国際交流委員会(Web開催)
9. 17～30	第24回総会(メール会議)
9. 17	ニュースレター89号発行
9. 24～28	応用生態工学会 第24回札幌大会 ⇒ 1年延期
9. 24～28	第108回理事会(メール会議)
9. 25	テキスト刊行委員会(Web開催)
9. 28	会誌「応用生態工学」Vol.23-1発行
10. 30	<後援・応用生態工学会>近畿地方整備局主催 令和2年度多自然川づくり近畿地方ブロック担当者会議(Web開催)
12. 5	応用生態工学会 2020年度web研究発表会
12. 10	普及・連携委員会(対面とオンライン併用) (札幌教育文化会館講堂)
12. 10	応用生態工学会札幌「氾濫原の保全と再生」テキスト勉強会 (対面とオンライン併用) (札幌教育文化会館講堂)



12.10	応用生態工学会金沢 Web 研修会 「激甚化する豪雨災害に対する流域全体の取り組み」
12.11	将来構想委員会 (Web 開催)
12.17	会誌編集委員会 (Web 開催)
12.17	応用生態工学会福岡 九州地区事例・研究発表会 (Web 開催)
1.11	<共催・応用生態工学会新潟>新潟大学農学部野生動物生態学研究室主催 新潟市民シンポジウム～ 洋上風力発電について一緒に考えてみませんか? ～ (朱鷺メッセ 4F 国際会議室)
1.19	第 88 回幹事会 (Web 開催)
1.25	ニュースレター90号発行
1.29	応用生態工学会名古屋 「氾濫原の保全と再生」テキスト勉強会 (Web 開催)
2.10	第 109 回理事会 (Web 開催)
2.26	ニュースレター91号発行
2月	会誌「応用生態工学」Vol. 23-2 発行
3.31	2020年度(令和2年度)終了

2021年度(令和3年度)行事の予定

4.1	2021年度(令和3年度)開始
4月	国際交流委員会, 2021年度海外学会等への派遣者決定
5月	ニュースレター92号発行
5月	幹事会
6月	理事会
7月	会誌「応用生態工学」Vol. 24-1 発行
7月	ニュースレター93号発行
7月	幹事会
8月	理事会
9.22	国際交流委員会 国際シンポジウム (札幌教育文化会館他)
9.22~25	応用生態工学会 第24回大会 (札幌教育文化会館他) 9月22日(水): 自由集会(北海道内の話題を中心に) 9月23日(木): 研究発表会(ポスター発表)、自由集会 9月24日(金): 研究発表会(口頭発表)、自由集会、懇親会 9月25日(土): 第25回総会、公開シンポジウム 9月21日(火)または9月26日(日): エクスカーション 大会期間中に幹事会、理事会、各委員会を開催
12月	幹事会
12月	ニュースレター94号発行
1月	会誌「応用生態工学」Vol. 24-2 発行
2月	理事会
2月	ニュースレター95号発行
2月~3月	2022年度海外学会等への派遣員の募集
3.31	2021年度(令和3年度)終了

## 6 事務局より

### 6.1 住所等の連絡先が変更となった場合は連絡をお願いいたします

会員情報の変更登録は、ホームページのトップ画面右上の「入退会・登録変更・購読」バナーから入り、「会員登録情報変更フォーム」から入力して送信してください。

また、下記 URL で「会員登録情報変更フォーム」へ直接接続することもできます。

<https://www.ecesj.com/FS-APL/FS-Form/form.cgi?Code=change>

会員情報変更のご連絡は、学会事務局のアドレス E-mail : [eces-manager@ecesj.com](mailto:eces-manager@ecesj.com) にメールをいただくことでも可能です。

会誌のお届け、ニュースレター、その他連絡では、かなりの不達が発生しています。 よろしくお願いたします。

### 6.2 退会の申し出は学会ホームページの退会フォームからお願いいたします

退会の申し出については、退会フォームのほかに、事務局へのメール、電話、年会費払込請求書の通信欄に記載等でなされています。事務局の見落とし等の原因の元になりますので、できるだけ退会フォームまたは件名に「退会の連絡」等明示したメールによる申し出をお願いいたします。

### 6.3 既刊学会誌を希望する会員に頒布します（郵送料は負担してください）

学会事務局では、既刊学会誌の在庫整理を進めています。今後は一定の冊数を確保して、残りは希望者への頒布、廃棄を考えています。希望者多数の場合は、先着順です。

希望される会員は、学会事務局のアドレス E-mail : [eces-manager@ecesj.com](mailto:eces-manager@ecesj.com) までお知らせください。申込者には、事務局から郵送料を計算してお知らせします。郵送料をいただいた後、発送します。

### 6.4 会員数および LEE 購読者数

2021年1月17日現在

	会員数	対前年同時期比較	LEE 購読者数	対前年同時期比較
名誉会員	9名	増減なし	1名	減 1名
正会員	861名	減 15名	※65名	減 5名
学生会員	91名	減 2名	6名	増 3名
合計	961名	減 17名	72名	減 3名
賛助会員	44法人 (63口)	増1法人 (増1口)		

※賛助会員 1社を含む